

1995年度日本村落研究学会総会

日時 1995年11月18日（土）夕刻
場所 京都府亀岡市／京都レクリエーションセンター亀岡ハイツ
議長 大沼盛男

I 報告

1 1995年度事業報告、会員動向（大内事務局長）

(1) 理事会の開催

第1回（1994年11月3日、南知多町総合体育館会議室）

副会長の選任、学会賞の取扱い、「村研ジャーナル」への広告の掲載、慶弔規定、購読会員と機関会員の勧誘、本年度大会のテーマ・セッション、中国農村社会学会への参加。

第2回（1994年12月10日、明治大学大学院）

南知多大会の反省、研究委員会の活動（本年度大会、インタレスト・アンケート、共同研究推進体制の整備、地区研究会）、編集委員会（ジャーナル、年報）、国際交流委員会（IRSA、ARSWG）、会費長期滞納による退会会員、学会賞。

第3回（1995年4月22日、明治大学大学院）

本年度大会、研究委員会（大会報告、地区研、インタレスト・リスト、小グループ活動）、編集委員会（年報、ジャーナル）、国際交流委員会（中国農村社会学会、世界農村社会学会議）、学会賞、会費滞納者。

第4回（1995年9月9日、農村生活総合研究センター）

研究委員会（大会運営）、編集委員会（年報、ジャーナル）、国際交流委員会（ルーマニア大会のテーマ設定）、学会賞、理事選挙における被選挙権。

第5回（1995年11月17日、京都レクリエーションセンター亀岡ハイツ）

総会準備、学会賞、理事改選手続きについて。

(2) 地区研究会の開催

北海道地区研究会（1994年12月17日，北海道大学文学部研究室，11名）

報告者：大野晃 「西表島の自然と人間－「共存」の可能性を求めて－」

瀬戸内地区研究会（1995年4月8日，香川大学セミナー・ハウス，13名）

報告者：狩野寿夫 「現代農村における「いえ」と「むら」に関する一考察」

：片岡弘勝 「讃岐地域住民の生涯学習要求に関する調査研究－東讃の地域づくり課題を中心に－」

：野崎優加 「発展途上国農村部における住民参加型プログラムの取り組みとその意義」

中部・近畿地区研究会（1995年5月27日，京大会館，20名）

報告者：嘉田由紀子「村落社会と環境問題」

：渡辺紹裕 「農業用水利用の変化と水管理組織」

九州地区研究会（1995年6月3日，熊本県立大学会議室，9名）

報告者：山田忠昭 「「日本一づくり運動」以後の熊本地域づくり」

関東地区研究会（1995年6月3日，明治大学大学院，21名）

報告者：小田切徳美「日本農業の中山間地問題－「西日本」型中山間地を中心にして－」

：市田知子 「ドイツの中山間地問題－バイエルン州を中心に－」

東北地区研究会（1995年7月15日，東北学院大学土壌キャンパス，18名）

報告者：岩本由輝 「タイ農村の現状－家族と宗教のあり方を中心に－」

：小林一穂 「中国河北農村の現状－家族生活を中心に－」

(3) 研究通信の発行

第178号（1995年1月30日）

第179号（1995年4月15日）

第180号（1995年8月5日）

第181号（1995年10月11日）

(4) 会員数

昨年度大会時の正会員数 358名

今年度会員増加数 16名

（内訳：新入会員22名，退会会員2名，逝去者4名）

今大会時の正会員数 374名

その他 購読会員数 5名

2 会計報告（高田会員），監査報告（市田会員）

事務局より，1995年度の会計収支決算案について説明があった。会計監査の市田会員より，帳簿，書類とも完備されているとの報告があり，別掲のとおり決算案が承認された。

3 研究委員会報告（河村委員長）

- ・大会報告数が増える傾向にあり、今後の大会においては日程の調整が課題となる。
- 今大会のテーマセッションでは自然科学分野からの報告も組まれ、学際的な方向は大切にしたい。
- ・学会員の研究活動の活性化について、会員の関心分野や研究フィールドの調査をどう実施するか（関心分野のくくりかたや調査の方法）は今後の課題である。共同研究が今後根づいていくことが期待される。地区研究会は活性化してきており、実績にあらわれている。
- ・全国に散らばる委員による研究委員会の運営は難しい点があり、工夫が必要である。

4 国際交流委員会報告（鳥越委員長）

- ・I R S Aの第9回会議が、1996年7月21日から26日に、ルーマニアのブカレストで開かれる。参加を呼びかけたい。
- ・I R S Aのアジア地区の単位となる「アジア農村社会学会」の準備会が持たれており、村研も代表機関として参加している。中国も積極的であり、正式なものになる方向である。

5 学術会議関連報告（安原副会長、高橋理事）

現在、社会学研連委員を村研からは出していないが、今後、日中社会学会から出ている委員と交替し、村研から委員を出す予定である。村研としては鳥越会員を推薦したい。

6 編集委員会報告（吉沢委員長、北原年報編集責任者、長谷川ジャーナル編集責任者）

- ・今年度「村研年報」（第31号）は、本日刊行された。「村研ジャーナル」は、今年度第2号と第3号を刊行した。現在、第4号を編集中である。両者の購入拡大をさらにお願いたい。
- ・「年報」の原稿については、3月に構想を出してもらった。また、英文レジメを付けるようにした。今後、特集テーマの設定をどうするか、今は依頼原稿のみであるが自由投稿の論文の余地をどう確保するか、原稿に対する編集委員の責任のもちかた、が課題となる。
- ・「ジャーナル」には多数の応募を期待したい。

II 議題

1 1996年度事業計画、予算案について

1996年度は、会員名簿の作成が予定されること、地区研究会が6ヵ所に増えること、事務局の交通費をとくに計上したこと、ジャーナルを2回、研究通信を4回発行の予定であることなどが事務局より説明され、別掲の1996年度予算案が了承された。

2 次期事務局について

次期事務局について、東北大学の細谷昂会員にお引き受けいただく案が事務局より提案され、了承された。細谷会員より受諾の挨拶があった。

3 次期大会事務局について

次期大会事務局について、山形大学の大川健嗣会員にお引き受けいただく案が事務局より提案され、了承された。

4 学会賞について

別掲の「研究奨励賞の設置について（案）」が、理事会より提案され、会長が説明を行な

った。さらに今後も詳細を検討することとして、学会賞の設置が了承された。

III 理事の改選

- 1 選舉管理委員として、黒崎会員、神田会員、永野会員が選出された。
- 2 10名連記の投票が総会出席会員によって行なわれた。投票者総数93名。
(10名の新理事が選出され、総会後の懇親会席上にて報告された。)

※ 選出された新理事

相川良彦、池上甲一、大野晃、大川健嗣、嘉田由紀子、小林一穂、
徳野貞雄、長谷川昭彦、東敏雄、松岡昌則。計10名(五十音順)。

IV その他

磯辺会長より退任の挨拶があった。

研究奨励賞の設置について(案)

理事会

- 1 賞の趣旨 : 村落研究に新しい知見を加え、本学会の研究水準を高めて、
今後のさらなる発展が期待できる会員の業績にたいして、研究
を推奨する目的をもって、学会賞として研究奨励賞を贈る。
- 2 賞の名称 : 日本村落研究学会研究奨励賞。
- 3 賞の対象 : おおむね前年に公刊された会員の著書または論文(共著を含
む)。
- 4 受賞者 : 複数の会員の推薦により、そのなかから若干名を選ぶ。
原則として40歳代程度まで。
- 5 選考 : 理事会に選考委員会を置く。
選考委員会は、毎年度、委員を更新する。
- 6 表彰 : 賞状および副賞。

1995年度決算
(1994.11.1.~1995.10.31.)

1. 収入の部

科 目	94年度決算	95年度予算	95年度決算	予算-決算
前年度繰越金	770,177	1,508,614	1,508,614	0
会費収入	2,071,000	2,082,000	1,804,000	278,000
村研ジャーナル販売代金	184,360	336,000	344,640	-8,640
利息	5,136	5,000	17,345	-12,345
雑収入	34,500	80,000	80,000	0
計	3,065,173	4,011,614	3,754,599	257,015

2. 支出の部

科 目	94年度決算	95年度予算	95年度決算	予算-決算
村研ジャーナル印刷費	628,135	1,256,270	1,224,639	31,631
同表紙版下	35,000	0	0	0
同追加購入	16,920	38,400	70,390	-31,990
同郵送料	101,810	191,700	182,830	8,870
「会員名簿」印刷費	59,740	0	0	0
研究通信等印刷費	137,881	140,000	184,139	-44,139
連絡通信費	171,450	200,000	259,840	-59,840
編集委員会費	26,057	50,000	10,000	40,000
研究委員会費	0	20,000	0	20,000
会議費等	11,075	20,000	1,600	18,400
地区研究会費	40,000	50,000	50,000	0
交通費補助	260,000	300,000	300,000	0
消耗品費	34,144	40,000	58,297	-18,297
事務謝金	20,000	20,000	0	20,000
事務局交通費	1,140	10,000	0	10,000
国際交流費	0	20,000	24,000	-4,000
雑支出	13,207	20,000	20,624	-624
小計	1,556,559	2,376,370	2,386,359	-9,989
次年度繰り越し金	1,508,614	1,635,244	1,368,240	267,004
合 計	3,065,173	4,011,614	3,754,599	257,015

1996年度予算
 (1995.11.1~1996.10.31)

1. 収入の部

科 目	95年度決算	96年度予算	備 考
前年度繰越金	1,508,614	1,368,240	
会費収入	1,804,000	2,178,000	$6,000 \times 341 + 4,000 \times 33$
村研ジャーナル販売代金	344,640	336,000	168,000円×2回
利息	17,345	17,000	
雑収入	80,000	80,000	村研ジャーナル広告料等
計	3,754,599	3,979,240	

2. 支出の部

科 目	95年度決算	96年度予算	備 考
村研ジャーナル印刷費	1,224,639	1,256,000	$628,000 \times 2$ 回
同表紙版下	0	0	
同追加購入	70,390	57,600	$960 \text{ 円} \times 30 \text{ 冊} \times 2 \text{ 回}$
同郵送料	182,830	201,960	$270 \text{ 円} \times 374 \text{ 人} \times 2 \text{ 回}$
「会員名簿」印刷費	0	60,000	
研究通信等印刷費	184,139	180,000	$45,000 \times 4$ 回
連絡通信費	259,840	200,000	
編集委員会費	10,000	50,000	年報編集及びジャーナル編集
研究委員会費	0	20,000	
会議費等	1,600	20,000	
地区研究会費	50,000	60,000	$10,000 \times 6$ 地区
交通費補助	300,000	300,000	
消耗品費	58,297	40,000	
事務謝金	0	20,000	
事務局交通費	0	100,000	
国際交流費	24,000	20,000	
雑支出	20,624	20,000	
小計	2,386,359	2,605,560	
予備費	1,368,240	1,373,680	
合 計	3,754,599	3,979,240	